

ODAに関する情報文献(JICA作成)一覧

■テーマ・分野別研究報告書

〈開発課題に対する効果的アプローチ〉

●『地方行政』(2007) ●『水質汚濁』(2005) ●『大気汚染』(2005) ●『運輸交通』(2005) ●『都市・地域開発』(2005) ●『リプロダクティブヘルス』(2004) ●『水資源』(2004) ●『農業開発・農村開発』(2004) ●『情報通信技術』(2003) ●『貧困削減』(2003) ●『貿易・投資促進』(2003) ●『高等教育』(2003) ●『中小企業振興』(2002) ●『基礎教育』(2002) ●『HIV/AIDS』(2002) ●『農村開発』(2002)

〈援助潮流・援助アプローチ〉

●『事業マネジメントハンドブック』(2007) ●『社会調査の心得と使い方～人々に届く援助とは?悩めるあなたのための心得帳～』(2007) ●『社会調査の事業への活用～使おう社会調査～』(2005) ●『人々に国境をひらく道～クロスボーダー交通インフラ対応可能性研究より～』(2006) ●『途上国の開発事業における官民パートナーシップ(PPP)導入支援に関する基礎研究』(2005) ●『PPP(Public-Private Partnership)プロジェクト研究』(2005) ●『援助の潮流がわかる本:今、援助で何が焦点となっているのか』(2003) ●『日本型国際協力の有効性と課題』(2003) ●『ソーシャル・キャピタルと国際協力一持続する成果を目指して～』(2002)

〈キャパシティ・ディベロップメント(略称CD)〉

●『キャパシティ・ディベロップメント～CDとは何か、JICAでCDをどう捉え、JICA事業の改善にどう活かすか～途上国の主体性に基づく総合的課題対処能力の向上を目指して』(2006)

〈教育〉

○『課題別指針【基礎教育】』(2005) ※JICAホームページ「JICANレッジ・サイト」→分野課題→教育→初等教育→課題別指針→課題別指針(全文)でダウンロード可。製本版なし。●『理科教科教育協力に係る事業経験体系化』(2007) ●『キャパシティ・ディベロップメントに関する事例分析・ケニア中等理科教育強化計画プロジェクト』(2007) ●『客員研究員報告:アフリカにおける職業・産業人材(TVET)一変化する支援環境と人材需要への対応～』(2007) ●『客員研究員報告:途上国高等教育機関のマネジメント分野における支援の可能性』(2006) ●『沖縄の教育復興の経験』(2006) ●『中所得国への産業人材育成支援のあり方』(2006) ●『ノンフォーマル教育支援の拡充に向けて』(2005) ●『客員研究員報告:住民参加型小学校建設プロジェクト—その効果的運用に向けて』(2005) ●『日本の教育経験—途上国の教育開発を考える—』(2003)

〈保健医療・人口・社会保障〉

●『キャパシティ・ディベロップメントに関する事例分析・タンザニア・モロゴ州保健行政強化プロジェクト』(2007) ●『客員研究員報告:結核対策から見える人間の安全保障』(2007) ●『客員研究員報告:開発途上国の高齢化を見据えて—新しい支援・協力への視座～』(2006) ●『客員研究員報告:紛争・災害後復興期の国に対するJICAの保健医療分野支援のあり方』(2006) ●『客員研究員報告:保健医療セクターにおける「総合的品質管理手法(TQM)」による組織強化の研究』(2006) ●『客員研究員報告:Use Fees Policy and Equitable Access to Health Care Services in Low-and Middle-Income Countries-with the Case of Madagascar』(2006) ●『客員研究員報告:紛争時・紛争後におけるメンタル・ヘルスの役割』(2006) ●『日本の保健医療の経験—途上国の保健医療改善を考える』(2004) ●『日本の社会保障の経験—社会保障後発国としての制度整備過程と途上国への教訓の観点から—』(2004) ●『母と子の微量栄養素欠乏をなくすために—小さじ一杯で育まれる母子の健康—』(2003) ●『第二次人口と開発援助研究—日本の経験を活かした人口援助の新たな展開—』(2003) ●『客員研究員報告:アラブ・イスラム地域における障害者に関する重要課題と障害者支援アプローチに関する研究』(2005)

〈ガバナンス・平和構築〉

●『アフリカにおける地方分権化とサービス・デリバリー—地域住民に届く行政サービスのために—』(2007) ●『キャパシティ・ディベロップメントに関

する事例分析・タイ地方行政能力向上プログラム』(2007) ●『客員研究員報告:ザンビア国第5次国家開発計画、州開発計画、郡開発計画の策定プロセスおよびこれらの整合性に関する調査』(2007) ●『JICAにおけるガバナンス支援—民主的な制度づくり、行政機能の向上、法整備支援—』(2004) ●『効果的な復興・開発支援のための援助の枠組みの検討—今後の平和構築支援に向けて』(2002) ●『民主的な国づくりへの支援に向けて—ガバナンス強化を中心に—』(2002) ●『客員研究員報告:紛争予防のためのメディア支援—欧米諸国における事業コンセプト—』(2006) ●『客員研究員報告:法整備支援における政策判断に関する立案・評価手法の検討』(2006) ●『客員研究員報告:The Promotion of Reconciliation and Peacebuilding Process through Development Aid Programmes in Timor-Leste』(2005)

〈資源・エネルギー〉

●『キャパシティ・ディベロップメントに関する事例分析・省エネルギー分野』(2006) ●『客員研究員報告:電力セクター改革下における発展途上国の電力規制機関の持つべき機能を考慮した電力規制機関の適正規模の計測』(2006)

〈経済政策・民間セクター開発〉

●『途上国における財政管理と援助—新たな援助の潮流と途上国の改革—』(2003) ●『客員研究員報告:貧困国の民間セクター開発における貿易・投資が経済成長に及ぼす効果—国際機関・ODAの役割へのインプリケーション—』(2004) ●『アフリカ地域南部アフリカ諸国における民間セクター活性化のための技術協力の役割最終報告書』(2006) ●『パキスタン 民間セクター活性化のための産業強化調査(プロジェクト研究)』(2005)

〈貧困削減〉

●『貧困削減と人間の安全保障Discussion Paper』(2005) (改編した市販刊物として『人間の安全保障—貧困削減の新しい視点』(2007)) ●『客員研究員報告:スキル・ディベロップメントと貧困削減』(2006) ●『客員研究員報告:貧困解消に向けての社会調査の重要性、可能性と困難性:ベトナム山岳地帯における「貧困」と「森林破壊」の関係にかかる参与観察型フィールド調査の事例から』(2005) ●『PRSPと援助協調に関する論考』(2004) ●『PRSPプロセス事例研究—タンザニア・ガーナ・ベトナム・カンボジアの経験から—』(2004) ●『客員研究員報告:マイクロファイナンスへのJICAの支援事例分析』(2004)

〈農業・農村開発〉

●『客員研究員報告:セネガル総合村落林業開発の経験から—地域住民の自主性を引き出す援助アプローチ—』(2006) ●『客員研究員報告:開発途上国における農林業プロジェクトの環境経済評価手法と事例』(2005) ●『農村生活改善協力のあり方に関する研究』(2002~2004) ●『準客員研究員報告:生活改良普及員に学ぶファシリテーターのあり方—戦後日本の経験からの教訓—』(2004)

〈ジェンダーと開発〉

●『客員研究員報告:基礎教育とジェンダー—教育におけるジェンダー—格差の解消とジェンダー平等確立を目指して—』(2007) ●『客員研究員報告:女性に対する暴力の現状と課題—開発援助機関の取り組み—』(2007) ●『第二次分野別ジェンダー-WID研究会～ODAのジェンダー主流化を目指して～』(2003) ※ <http://www.jica.go.jp/infosite/issues/gender/04.html>でダウンロード可。

〈環境全般・自然環境保全・水資源・防災〉

●『キャパシティ・ディベロップメントの観点からのコミュニティ防災—コミュニティを主体とした災害対応能力の強化に向けて—』(2007) ●『気候変動への適応策に関するJICAの協力のあり方』(2007) ●『クリーン開発メカニズム(CDM)とJICAの協力—JICAはCDMにどう取り組むことができるのか—』(2006) ●『客員研究員報告:保護区と地域住民の共生—エコシステム・アプローチによる生態系保全と保護区管理の統合—』(2005) ●『客員研究員報告:戦略的環境アセスメントの導入に関する基礎的研究』(2005) ●『開発途上国廃棄物分野のキャパシティ・ディベロップメント支援のために—社会全

体の廃棄物管理能力の向上をめざして—』(2005改訂) ●『日本の産業公害経験—開発途上国と価格・市場、クリーナープロダクツの観点から—』(2004) ●『防災と開発—社会の防災力の向上を目指して—』(2003) ●『水分野援助研究会報告書—途上国の水問題への対応—』(2002)

〈評価〉

●以下の◆の報告書は、JICAホームページの「JICA INFO-Site」→評価→評価情報・評価結果」のページからアクセス可。◆『JICA事業評価ガイドライン』(2004) (同じ内容の市販刊物として◎『プロジェクト評価の実践的手法』(2003)) ●『事業評価年次報告書』(2007) ●『DAC評価用語集』(2003) ●『JICAボランティア事業の評価手法に関する調査研究』(2004)

●以下は、JICAホームページの「JICA INFO-Site」→評価→評価情報・評価結果」のページから、「プログラムレベルの評価報告書」のなかの「JICAプログラム評価」・「テーマ別評価」より抜粋。

「JICAプログラム評価」より

◆『ポリビア・貧困地域飲料水供給プロジェクト』(2007) ◆『ガーナ・アツパーウエスト州住民の健康改善プログラム』(2007) 「テーマ別評価」より

◆『プログラム評価(マラウイ、ベトナム・教育分野)』(2006) ◆『地方行政能力向上～インドネシアを事例として～』(2006) ◆『住民参加(インドネシア、ニジェール、ザンビア)国別事業評価』(2006) ◆『パレスチナ難民支援』(2006) ◆『外部機関による評価・南南協力』(2006) ◆『外部機関による評価・経済連携(インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ)』(2006) ◆『ホンジュラス基礎教育』(2006) ◆『ボランティア事業(青年海外協力隊事業)(マラウイ、バヌアツ、ホンジュラス)』(2005) ◆『高等教育』(2006) ◆『農業・農村開発(普及・事例研究)フェーズ1』(2005) ◆『参加型地域開発のジェンダー評価』(2005) ◆『アフリカの感染症対策』(2005)

〈市民参加〉

●『NGO—JICA草の根展開型事業の経験分析—双方の事業特性と相互補完性を活かした今後の連携に向けて』(2005) ●『地域おこしの経験を世界へ—途上国に適用可能な地域活動—』(2003) ●『地域に根ざしたNGOとの連携のために—草の根NGOとJICAとのパートナーシップ構築—』(2003) ●『21世紀のJICAボランティア事業のあり方』(2002)

■国別・援助別援助研究(2002年以降作成のもの)

●『東南アジア地域—地域統合と開発援助—』(2006) ●『ポリビア』(2004) ●『タイ』(2003) ●『ネパール』(2003) ●『中・東欧』(2003) ●『パキスタン』(2003) ●『キューバ』(2002) ●『ブラジル』(2002) ●『ガーナ』(2002) ●『アフリカ援助入門』(2003)

■セミナー・シンポジウム報告書

シンポジウム「ボルネオ島での生物多様性保全の経験と今後必要な取り組み」(2007) ジョセフ・E・スティグリッツ教授講演会報告会「グローバル化—シンポジウムの中途国開発と日本への期待」(2007)、『周辺地域との関係から見るアフガニスタンの将来像』(2007)、『情報通信セクター政策改革と地方通信インフラ—国際ICT政策研究セミナー報告書—』(2006)、『開発途上国の高齢化と国際協力』(2006)、『キャパシティ・ディベロップメント～途上国の主体性に立った総合的課題対処能力の向上をめざして～』(2005)、『セミナー報告書』、『公開シンポジウム:スキル・ディベロップメントと地域開発:技術教育・訓練分野の国際協力のあり方:報告書』(2005)、『EFA(万人のための教育)達成に向けて～私達にできること、今すべきこと～』(2005)、『セミナー報告書』

■定期刊行物

『monthly Jica』(月刊)、『Network』(英語、季刊)、『クロスロード』(月刊)、『国際協力研究』(年2回発行)、『Technology & Development』(『国際協力研究』英訳版、年1回発行)

(注) 上記は2002年以降に作成されたJICA報告書(個別事業報告書以外)から抜粋したもの(カッコ内は出版年)。●○◆◇印については次のとおり。

●:JICAホームページ(<http://www.jica.go.jp>)の「報告書・映像資料」でダウンロード可。JICA図書館(東京都新宿区市谷・JICA国際協力総合研修所内)を利用しての閲覧可。
○:JICAホームページの「JICANレッジ・サイト」でダウンロード可(製本がないものもあり)。
◆:JICAホームページの上記以外のページでダウンロード可。JICA図書館を利用しての閲覧可。
◇:ダウンロード不可(もしくはダウンロード準備中を含む)。JICA図書館を通して請求する場合のみ閲覧可。
◎:市販の書籍として刊行。